

令和4年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 議事要旨（案）

日 時：令和4年12月27日（火）15：00～16：50

場 所：葉山町役場 議会協議会室1

出席者

委 員：古賀紀江、柳澤要、守谷壽浩、安達禎崇、宮寺透雄、加藤智史、北原淳子
事務局：町田伸政策財政部長、公共施設課岩田英之課長、伊倉駿主任、山田悠司主任

1. 会議の公開について

本日の委員会は公開とする。

2. 議事

【事務局】

「資料1」 令和4年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会全体資料」により、前回の振り返りについて報告

【委員】

意見なし

【事務局】

「資料1」 令和4年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会全体資料」、
「資料2」 公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針の改訂等について」及び
「資料3」 葉山町公共施設等総合管理計画改訂（案）」により、「葉山町公共施設等総合管理計画の見直し（案）」について」を説明。

【委員】

長寿命化で費用削減を見込めるという試算をしているが、長寿命化をせずに建て替える場合と長寿命化をして建て替える場合と、本当にこの先40年間のコスト面でプラスの要素があるのか。どのように判断すればよいか。

【事務局】

全体資料P19に記載のとおり、公共施設は原則として60年で建替としているものを、「保有・保全の方針」において長寿命化の方針を示した3施設については80年で建替としている。更新のタイミングが先になったことで、この先40年間のコストについては、費用削減が見込める。あくまで40年間の枠の中の推計になるので、それが本当に町のためになるかということは考えなければならない。長寿命化のほかに複合化などを考えていく必要があるが、この計画に記載するのか個別施設計画に記載するのかは町として決まっていないので、令和7年までに方向性を示したい。

【委員】

あくまで延命措置となるので、40年で考えれば数字上はコスト削減になるが、その先のことも考えると建替をしたほうが結果的にコスト削減になる場合がある。ある施設で機能を変えず使い続けるなら、リニューアルして使うということも考えられるが、

機能の集約、他の施設との複合化、機能の転用、減築のほか、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ、官民連携、公民連携）のように民間の力を使うことも考えられる。その中で長寿命化は機能を変えずに延命させるという意図になると思う。今は財政状況が厳しいから長寿命化して延命となったところで、将来は財政状況が改善されるとは限らない。手法は検討する必要があると思う。

【事務局】

長寿命化の考え方については、毎年かかる投資的経費の年平均を2倍近く上回っていることから、その対策として大きい施設を長寿命化することで、その乖離を縮めるという比較として記載をしている。財政負担の平準化を図るためには一定の意義はあるが、あくまで延命措置となるため、毎年の維持管理コストは増えると思う。この部分は町の考え方として整理が必要だと思っている。機能維持の考え方については、例えば学校施設の減価償却率は90.4%と一番高い数値となっている。葉山町では今、小中一貫教育を目指しており、当初は分離型、最終的には施設も統合することを視野に入れて進めている。社会情勢の変化、ニーズの変遷に合わせて機能、施設を変えていくことが必要だと思う。長寿命化をすることにより変化が阻害されるのであれば、長寿命化だけに固執する必要はないと考えている。

【委員】

小中学校ごとの学区の問題もあり、学校の統合というのは課題が多い。小中一貫だけでなく、空き教室に公民館機能を持たせるなど、地域特性に合わせて複合化を検討できると思う。

【委員】

減価償却率は定率で算出しているのか、定額で算出しているのか。

【事務局】

定額で算出している。

【委員】

長寿命化しない場合で減価償却率がどの程度になったときに建替しなければいけないという目安はあるのか。

【事務局】

減価償却率がいくつになったから建替というものではなく、建築後60年や80年ということを基準としている。

【委員】

60年という目安について、対策を施すことで80年や100年保つことができるかもしれないが、そもそも良い建物は長く保たれていくため、何か葉山らしい視点や切り口での計画にできないかと思う。例えば学校施設には思い入れがあり、小中一貫となればその思い入れは強くなると思う。小さな町である葉山だからこそ、倫理的な、価値的なものを含んだものがあるといいのではないかと思う。

【事務局】

FM会議の中で「葉山らしさ」などまちづくりの議論になった。人口はこれから減

っていくと推計される。人口減少を食い止めるためのファシリティマネジメントが必要でないかという意見が挙がった。力点を置くところには更新を早める考え方も必要かと思っている。

【委員】

他の市町村では、人口流入が多いところ、人口増減は少ないが高齢化が進んでいるところ、過疎化が進んでいるところ、庁舎整備をするような開発が進んでいる中心地など、地域別の特性がある。葉山でも地域ごとの特性を踏まえた施設の再編が必要だと思う。過疎化の地域となると、施設を複合化したり減らしたりすることを考えないといけない。全体の方針と地域ごとのビジョンを設けて、モデル地域などあってもいいかと思う。それを総合管理計画に入れるのか個別計画に入れるのかは分からないが、方針として見せていく必要はあると思う。

【事務局】

まだ細かい議論はできていないが、施設の再編にあたっては地域の特性という観点は避けて通れないと思っている。

【委員】

マスタープランのような、大きな方針は最初に示すべきかと思う。

【委員】

葉山は海か山かという形に分かれているが、コミュニティ施設の多くは山側となっている。海側の住民は施設を使いにくい。だからこそ、この稼働率となっていると思う。町内会自治会単位でいうと、他の地域の施設は借りづらい。大きいコミュニティ施設のほとんどが自主避難場所になっているが、海側の住民は逃げる場所がない。稼働率が低いから廃止しよう、というものではないと思う。利用料も場所によって違い、使い勝手が悪い。今は新しい施設を作ることは難しいと思うが、空き家は多くある。その活用についても考えてほしい。

【委員】

町の方向性、ビジョンを示してもらったほうがよいということが前回の委員会でも話に挙がり、先ほど人口減少についても話があった。ただ、転入してくる人は多いし、一度町外に出ても子育て世代になると葉山に戻ってくるという人が多いと感じている。葉山で子育てをしようと考えている若い世代もいる中では、人口減少は推計とは違う形になるのではないか。稼働率も人口の年代バランスによって変わるのではないかと思うが。

【事務局】

町での母子手帳の発行件数は年間 100～120 となっている。ただ、他の自治体からの子育て世代の転入が多く、小学校に入学する人数は母子手帳の発行件数より多い。どのような町を目指すのかということに合わせて施設のあり方を考えないといけないが、いかに人口を減らさないかということが現時点で言える方向性だと思う。現実的なことを考えると、この人口増減の傾向の要因はコロナ禍によりテレワークが進んだことによるものだとすると、あくまで短期的な傾向でないかと思う。長期的には死亡数が

出生数を上回る自然減による人口減少があり、様々な視点から考えバランスをとって計画を作らなければいけないと思っている。

【委員】

人口は日本全国で減っており、少子化は必然といえる。その中で公共施設のサイズダウンを考えないといけないが、若い人に入ってきてほしい街づくりを目指すとか、そういった目標はこれから考えるのか。

【事務局】

町の総合計画が今は第四次の後期、令和7年から第五次となる。この第五次の計画は一から作っていくこととなる。総合計画でどこに力点を置くのかはこれから考え、令和7年が一つの節目となる。

【委員】

稼働率だけでは判断できないと思う。住民の使い勝手の良い施設に変えていく必要があると思うので、柔軟に対応してもらえればコミュニティ施設は重要な拠点となると思う。

【事務局】

稼働率が低いところは削減ありきではなく、稼働率を上げるなどの考えは必要という認識はある。

【委員】

この稼働率はどのような形で調査しているのか。同じ団体などが何度も使う場合のカウント方法などはどのようにしているのか。

【事務局】

同じ団体が複数回使っているところもあるが、そこまでの仕分けはしていない。30分を1コマという単位に、開館時間を全体とし、1名でも使っていれば稼働という区分けとしている。

【委員】

そこにも地域の特性が出ると思う。評価軸は明確にする必要はある。コスト、品質、サービス内容、安全性など。稼働状況も高齢者が多ければそういった利用方法になると思うし、コスト削減の一方で収益につながる方策、例えば受益者負担の考えになるのか、民間を入れるのか。評価軸を明確にして総合的に考える必要があると思う。

【委員】

評価軸という観点で考えると、コミュニティ施設だと施設があることを、行き方を知っているかという点もある。先ほど避難所の話もあったが、みんなが知っている場所なら、稼働率という部分は除外して価値のある場所という見方もできると思う。

【委員】

前回の振り返りの中で、大卒のビジョンという話があったが、言うのは簡単だが考えるほうは大変。一定の見通しがあると考えやすいが、それを決めるのが大変。施設を減らせばいいという問題でもない。ハード面とソフト面の双方をあわせた計画を作るのは大変だと思う。お金がないというならその中で考えないといけない、その背景

には人口の増減もあると思う。葉山は何を大事にしたいのかという観点があるとよいと思う。

【事務局】

「資料1 令和4年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会全体資料」及び「資料4 町長と葉山のはなし 要望等一覧」により、「公共施設の方向性について」を説明。

【委員】

各施設チームでの横断的な議論は大切なこと。図書館のような社会教育施設も含めて検討を行うのか。都内では学校図書館と自治体図書館の連携に向けて取り組まれているが。

【事務局】

全体が対象となる。今は一色小の中で民間の放課後児童クラブが活動している例もある。学校施設の中で別の事業を取り組みたいという意向もあるため、検討を進めていきたい。

【委員】

学童も最近は学校施設にあるが、利用者が多すぎるということもある。札幌市だと児童館をすべて学校に組み込み、体育館など専用施設も含めて学童がゆったり過ごせるよう工夫している。

【事務局】

まだ町長部局と教育委員会部局の連携が足りないと感じている。学童の取り組みについても一部の児童館と民間施設で実施しているが、本来の学校としての役割を超えてやっていけないといけないのではと考えている。そうすることで児童館という建物のサイズダウンも考えられると思う。今後の大きな課題として認識している。

【委員】

お金がどれくらい使えるのか、どのようなビジョンがあるのか、具体的な目標などを示したうえで計画は成り立っていくものだと思う。少なくともそういった部分が計画の最初に明確に示された上で内容の理解が進められる気がする。

【委員】

この委員会は建物について話す場だとは思いますが、建物を使うのは人間であって、例えば児童館は子どもたちが使う場であり、そこでは発達支援のことや人に対するケアも担っていると思う。ハード面だけでなく、様々な状況にある利用者の気持ちや立場、現場の考えを大事にして検討してもらいたい。

【委員】

都内では敷地が少ないこともあり、図書館を統合して一体化したいというプロジェクトがある。一方で学校側は機能面の連携はよいが、場所は別でよいのではないかという意見も出ている。いろんな意見が出るので、ハード面とソフト面双方を検証して評価する必要があると思う。

【委員】

その建物に関わる専門家のチームにおいて検討・計画すること、という旨を計画の最後でもよいので記載すべきだと思う。

【委員】

今後の方向性はどのタイミングで実施をするのか。

【事務局】

公表するのは令和7年1月なので、そこまでにやるということではなく、そこまでにどういったことができるかという議論を行う。

【事務局】

ソフト面とハード面の話は非常に重要であり、まずは大きなビジョンを町が示すべきということは認識している。ただ、それを今回示せていない。第五次総合計画の策定作業にあわせてソフト面の整備を行い、総合管理計画の策定と並行して進めていきたい。

【委員】

タウンミーティングの回答は発表されるのか。

【事務局】

その場で回答したものも含まれるが、ホームページで公表すると聞いている。

【事務局】

来年度、内容をもっと公共施設に絞ったタウンミーティングの実施を検討している。

【委員】

今年のタウンミーティングは海側では実施されなかった。来年はやり方を考えてもらいたい。

【事務局】

今回配った資料には公共施設に関する部分だけを抜粋し記載した。これ以外のものも多くある。ホームページには掲載されると思う。

【委員】

地域別で高齢化が進んでいるところなどは行政からのトップダウンではなく、ワークショップのようなものを設けて住民がアイデアを出し合い、方向性を決めるといった事例もある。やる気のある住民がいる必要があるが、住民主体の協議体による方針を入れても面白い。

【事務局】

来年度はタウンミーティングのほかに、住民アンケートも実施を予定している。なるべく早い時期に実施し、計画に盛り込みたいと思っている。

【委員】

令和7年には誰でも分かる、文章の多い計画ではなく、絵や図の多い、見やすいものを作ってほしい。大きなビジョンもそうだが、見える化が大事。ただ心配なのはこのペースで令和7年に間に合うのか、このペースで何が決められるのかといったところ。

【委員】

公表の方法の一例としてビジョンブックといったものがある。地域住民から挙げたイメージを絵や図で表したもの。こういったものがあると理解が進むと思う。住民と一緒に作るという意味ではよいものだと思う。

【事務局】

「資料1 令和4年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会全体資料」により、第2回委員会の開催スケジュールについて説明。

【委員】

一つだけ計画改訂の内容で伝え忘れたので。ユニバーサルデザイン、脱炭素化のことのほかに、DXのことも入れていただきたい。

【委員】

会館の利用状況は利用者名簿に書いていない団体もある。稼働率は結果より高いと思う。

【事務局】

最後になるが、先ほど答え忘れてしまったので伝えさせていただく。令和7年1月からの計画はゴールではなくスタートとなる。見える化など分かりやすい資料は作っていききたい。ペースについては、策定委員会だけでなく内部でも検討を進めているので、加速しながら準備をしていきたい。